

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：34424

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24593416

研究課題名(和文) 在日中国人女性留学生の性の健康維持・増進をもたらす看護支援に関する研究

研究課題名(英文) Nursing support to maintain and promote the sexual and reproductive health of Chinese female students in Japan

研究代表者

斉藤 早苗 (SAITOH, SANAÉ)

梅花女子大学・看護保健学部・教授

研究者番号：40269858

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は在日中国人女性留学生の性の健康維持・増進をもたらす看護支援方法を開発することであった。在日中国人女性留学生の性の健康についての実態調査、および文献検討等を行い、看護支援方法を検討した。結果、具体的な目標を設定した「在日中国人女性留学生のための婦人科受診行動支援プログラム」を作成した。目標は1)女性の身体の特徴について正しく知る、2)診療科「婦人科」の特徴を知る、3)婦人科に受診した方がよい症状等について理解する、4)婦人科受診方法について理解する、であった。プログラムで使用する教材も制作した。在日中国人女性留学生を対象にプログラムを検証した結果、目標を達成できる有効性が確認できた。

研究成果の概要(英文)：Regarding such health, we performed an investigation, conducted a literature review, and discussed methods of nursing support. Consequently, we developed a “Gynecologic Consultation Support Program for Chinese Female Students in Japan” aimed at achieving specific goals. These goals were to: 1) obtain accurate knowledge concerning the characteristics of women’s bodies, 2) learn about the characteristics of gynecologic departments, 3) understand symptoms that ideally necessitate a gynecologic consultation, and 4) understand how to receive gynecologic consultation. We also developed program materials. As a result of conducting a survey of the program, involving Chinese female students in Japan, it was proven to help them achieve their goals.

研究分野：看護学・生涯発達看護学

キーワード：女性留学生 セクシュアル/リプロダクティブヘルス QOL 健康 看護 国際 性 中国

1. 研究開始当初の背景

戦後のわが国の留学生受入れ政策は、昭和58(1983)年の『21世紀への留学生政策に関する提言』(文部省)の提言を受け、「留学生10万人計画」と呼ばれるものから始まっている。当時のわが国への留学生数は約8,000人であったが、わが国の経済成長、中国の改革開放政策等の効果で年々留学生が増加し、平成20年には留学生数は123,829人となっている。平成20年には、優秀な人材の獲得等の観点から、「留学生30万人計画」の骨子が策定された(寺倉憲一;2009,黒田千晴;2011)。平成18年留学生数117,927人の内訳は、中国74,292人で構成比の63.0%を占めている。留学生の男女別の構成比は女性49.3%とほぼ同割合である(日本学生支援機構;2006)。しかし留学生の支援体制は十分とは言えず、「経済」「健康」「言語」「生活」「修学」「人間関係」といった問題に遭遇している(伊藤;1998,井上;2001)。陳ら(2008)は、在日中国人留学生の68.3%が、自分の健康問題についてストレスを経験しており、ソーシャルサポートが重要な役割を果たすと報告している。

中国人留学生を対象とした研究は、保健行動やソーシャルサポートに関する調査が散見される(馬;2007,森;2007,久米ら;2010)。しかし、中国人女性留学生のセクシュアル/リプロダクティブヘルス(sexual reproductive health:性と生殖の健康)に関しては、妊娠、出産、育児についての研究(GuYan-Hong;2004)が見られるにとどまっている。また施策も中国語版母子健康手帳の作成・交付等の母子保健が中心である。セクシュアル/リプロダクティブヘルスの基本的要素である女性自らの妊孕性の調節や安全な性、検査・健診のための婦人科受診に関する研究は見あたらない。研究者らは、招聘を受け2009年、2010年に中国山西省を訪問したが、中国ではわが国以上にセクシュアル/リプロダクティブヘルス教育がまだ十分ではなく、都市部と農村部では保健医療に地域差があるなど、わが国に留学する中国人女性の多くが性の健康保持に関する知識やスキルを身につけずに来日していると推測する。中国人女性留学生の中には学業修了後もわが国で就職し生活し続ける人もいるため、彼女たちへのセクシュアル/リプロダクティブヘルスは、留学中は無論のこと、その後も、わが国の医療費に直接的に影響を与える。よって、彼女たちへのセクシュアル/リプロダクティブヘルス教育の取り組みが必要である。在日中国人女性留学生のセクシュアル/リプロダクティブヘルスが向上すれば彼女たちの留学生活の向上につながり、わが国の医療費負担が軽減する。さらにグローバル社会において、日本の保健医療イメージのアップが図れ、また中国帰国後のピア効果にも期待できる。

2. 研究の目的

本研究はヘルスプロモーション理論を用い、ヘルスプロモーションの概念のAdvocate(支援すること、Enable(力を与える)こと、Mediate(調整すること)を活用し、在日中国人女性留学生の性の健康維持・増進をもたらす看護支援方法を開発することであった。

3. 研究の方法

(1)在日中国人女性留学生の性の健康についての知識・意識・価値観・保健行動・要望の実態把握

対象：国立・公立・私立の大学院・大学・短期大学・高等専門学校・専修学校・日本の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設(以下、日本語学校)に在籍している在日中国人女性留学生

調査方法：無記名自記式質問紙調査(郵送法または留置法にて回収)と半構成的面接調査

調査内容：基本属性、リプロダクティブヘルスに関する知識・行動、WHOQOL26等

データ収集期間：2012年7月～2013年5月

解析方法：統計的解析にはSPSS 16.0J for Windowsを使用し、有意水準を5%とした。半構成的面接調査の内容は質的帰納的分析を行った。

梅花女子大学研究倫理審査委員会の審査を受け承認を得た(承認番号：0010-0025)。

(2)看護支援方法の検討

上記の実態調査結果の分析

文献検討

アメリカの都市部を視察し、留学生や在日外国人に対するWomen's Health Care(含：周産期看護)の現状と課題の検討

～を整理・分析し、研究者間で看護支援方法を検討した。結果、中国人女性留学生が婦人科受診行動をとりやすくするための支援プログラムを作成することとした。

(3)在日中国人女性留学生のための婦人科受診行動支援プログラムの作成

中国人女性留学生が婦人科受診行動をとりやすくするための支援プログラムで用いるための教材視聴覚教材(DVD)とリーフレットを制作した。

(4)教育機関等へ制作教材の提供

国際交流センター、国際教育センター等を有する全国の大学・日本語学校や中国人留学生を支援する施設等に制作した教材視聴覚教材(DVD)とリーフレットを送付した。

(5)在日中国人女性留学生のための婦人科受診行動支援プログラムの有効性の検証

対象：国立・公立・私立の大学院・大学・日本語学校に在籍し、研究者らが作成したプ

プログラムを受講した中国人女性留学生
調査方法：フォーカスグループ・インタビュー法

調査内容：受講した婦人科受診行動支援プログラムの良かった点、改善点、リプロダクティブヘルズニーズ等

データ収集期間：2015年4月～2015年10月

解析方法：インタビュー内容は質的帰納的分析を行った。

梅花女子大学研究倫理審査委員会の審査を受け承認を得た（承認番号：0010-0065）。

4. 研究成果

(1) 在日中国人女性留学生の性の健康についての知識・意識・価値観・保健行動・要望の実態調査の結果

近畿地区に所在する大学院・大学・日本語学校に在籍している中国人女性留学生229名に無記名自記式質問紙を配布し、回収できた153名（回収率66.8%）を分析対象とした。

対象の属性

年齢は平均22.8±3.3歳、中国における最終学歴を図1に示す。

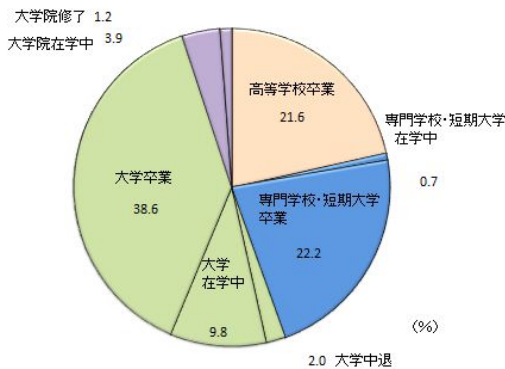


図1 中国における最終学歴 n=153

日本における在籍教育機関は、大学院・大学41.8%、日本語学校58.2%であった。在日期間は平均16.1±17.3ヶ月、婚姻状態は未婚95.4%、既婚4.6%、出産経験者は、1.3%であった。中国で性教育を受けたと回答した女性は104名（68.0%）いたが、教育を受けた時期は、中学校77.9%、高等学校29.8%、専門学校・短期大学1.9%、大学7.7%（複数回答）であった。

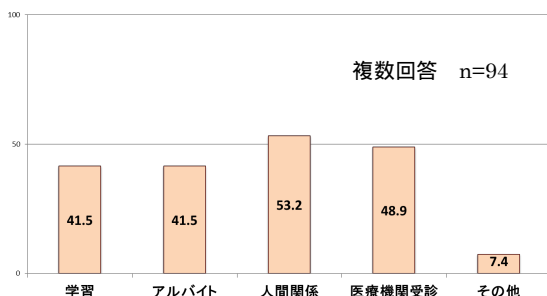


図2 日本語の不自由

日本語に不自由を感じている女性の割合は61.4%で、その内容を図2に示す。

基礎体温に関する知識と行動

基礎体温について「知っている」と回答した女性は、58.2%であった。その内、現在測定中の女性は4.5%、測定経験がある女性は71.9%であった。

月経に関する知識と行動

月経に関する知識は、5.8±2.25点（10項目、10点満点）で、図3に各項目の正答率を示す。月経を記録している女性は45.1%、月経について気になることがある女性は79.7%であった。月経を記録している女性の方が、月経について気になることがあると回答した女性が多かった（p<0.05）。

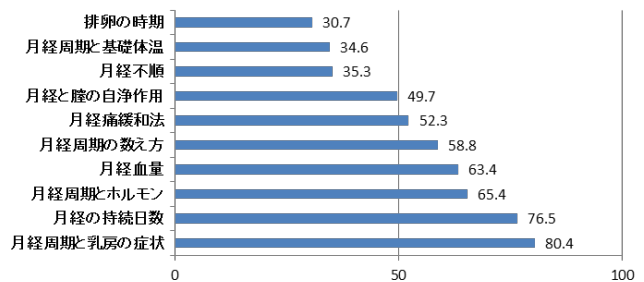


図3 月経に関する知識（正答率） n=153

性感染症に関する知識と行動

性感染症疾患12疾患中、エイズ・淋病・梅毒以外の9疾患についての認知は40%未満であった（表1）。性感染症に関する知識得点（25項目25点満点）は、平均10.4±4.81点であった。性行為体験の有無と性感染症に関する知識得点との関連はなかった。

表1 性感染症疾患に関する認知 (%) n=153

	正答	誤答	わからない	聞いたことがない	無回答
HIV/エイズ	88.2	4.6	4.6	0.0	2.6
梅毒	80.4	5.2	9.8	2.0	2.6
淋病	69.9	7.2	17.0	3.3	2.6
トリコモナス症	39.9	7.2	29.4	20.9	2.6
毛ジラミ症	31.4	7.8	32.7	25.5	2.6
尖圭コンジローマ	30.7	5.2	33.3	28.1	2.6
カンジタ症	28.1	7.2	32.7	28.8	3.3
ヘルペス	26.1	16.3	29.4	24.8	3.3
クラミジア感染症	22.2	5.9	40.5	27.5	3.9
B型肝炎	21.6	31.4	34.0	9.2	3.9
C型肝炎	15.7	28.8	41.2	11.1	3.3
軟性下疳	13.7	8.5	40.5	33.3	3.9

産婦人科受診行動

産婦人科受診について、来日前に受診経験があった女性は29.4%、来日後に受診を経験した女性は9.8%であった。全く産婦人科受診の経験のない女性は、58.8%存在した。

生活の質の実感（WHOQOL26得点）

WHOQOL26得点は平均3.3±0.3であった。各領域の平均点は、身体的領域3.3±0.4、心理的領域3.4±0.5、社会的関係3.3±0.4、環境領域3.3±0.4であった（範囲1-5点）。

QOL 得点は、年齢、在日期間と相関はなかった。日本語の不自由さの有無で QOL 得点に有意な差はなかった。

月経に関する知識と QOL 得点に相関はなかった。月経の記録行動の有無や月経について気になることの有無によって、QOL 得点に有意差はなかった。性感染症に関する知識と QOL 得点に相関はなかった。

表 2 QOL26 との関連 Pearson の相関係数

	QOL26 全体	身体的 領域	心理的 領域	社会的 領域	環境 領域
年齢	.171	.192	.123	.035	.157
滞在月数	-.002	.045	-.029	-.053	.053
月経知識得点	.065	.115	-.004	-.108	.086
性感染症知識得点	-.070	.064	-.172	-.179	.019

(2) 在日中国人女性留学生のための婦人科受診行動支援プログラム

プログラムの目的

プログラムの目的は、中国人女性留学生が、自身の性の健康維持・増進のために、女性の身体の特徴について正しい知識を持ち、日本における婦人科受診方法について理解することである。

具体的には以下の目標を設定した。

- 1) 女性の身体の特徴について正しく知る。
- 2) 診療科「婦人科」の特徴を知る。
- 3) 婦人科に受診した方がよい症状等について理解する。
- 4) 婦人科受診方法について理解する。

プログラムの構成と内容

プログラムは 30 分を 1 セッションとし、その構成は、視聴覚教材 (DVD) 約 10 分とリーフレットを用いた説明・質疑応答約 20 分からなる。視聴覚教材 (DVD) とリーフレットを中国人女性留学生が自己学習することによって、プログラムの目標が達せられるように制作した。

制作教材とその特徴

視聴覚教材 (DVD) は筆者らが制作したもので、その内容は、本研究対象の中国人女性留学生が、日本の婦人科の特徴、受診した方がよい症状、診察・検査の方法、受診時の準備について学習するというものである。言語は、音声・字幕とも中国語を使用し、留学生が理解しやすく、馴染みやすいようにした (写真 1, 2)。

リーフレットも筆者らが制作した。フレットは、A4 版両面印刷を 3 つ折りにしたもので、女性の身体の特徴、婦人科受診時の準備、受診時に役立つよう主訴等のメモ欄を記載した。また性感染症自覚症状チェック表を盛り込んだ。リーフレットは、留学生の日本語力の向上や日本での受診時に医療スタッフが対応できるよう同内容・同配置の中国語版と日本語版を制作した (写真 3)。

視聴覚教材 (DVD) とリーフレットの紙媒体で相乗効果を図ることを特徴とした。



写真 1 DVD ジャケット (表面)



写真 2 DVD ジャケット (裏面)



写真 3 リーフレット 日本語版と中国語版

(4) 教育機関等の制作教材の提供

中国人留学生が在籍する教育機関・関係施設など約 180 か所に制作した教材視聴覚教材 (DVD) とリーフレットを送付した。

(5) 在日中国人女性留学生のための婦人科受診行動支援プログラムの有効性

近畿地区に所在する大学・日本語学校に在籍し、プログラムを受講した中国人女性学生で、研究協力の同意が得られた 12 名にフォーカスグループ・インタビューを実施した。インタビュー時間は 30 ~ 60 分であった。

対象の属性

平均年齢は 19.6±3.2 歳で、来日期間は 6 か月未満であった。全員がこれまでに結婚、出産経験がなく、中国で婦人科を受診した経験のある女性は 2 名であった。11 名は日本語に関して不自由を感じていると回答した。

プログラムの有効性

12名全員が、DVDの視聴とリーフレットの説明を通して、「婦人科の特徴」「受診前の準備」「診察の流れ」「検査」「費用」「女性の身体の特徴」「月経周期」「性感染症の症状」について理解できた。また受講することで、安心して受診できる「心の準備ができた」と回答した。

教材への要望

専門用語一覧表や受診時の日本語の例文の表記や「月経期の生活の工夫」「性感染症の予防」についての情報記載の要望があった。

(6)研究成果のまとめ

本研究は、在日中国人女性留学生の性の健康維持・増進をもたらす看護支援方法を開発することであった。在日中国人女性留学生の実態調査等に基づいて作成した「在日中国人女性留学生のための婦人科受診行動支援プログラム」は、具体的目標 1)女性の身体の特徴について正しく知る、2)診療科「婦人科」の特徴を知る、3)婦人科に受診した方がよい症状等について理解する、4)婦人科受診方法について理解する、を達成できる有効なプログラムである。

本研究で制作した教材、視聴覚教材(DVD)とリーフレットともに、各々単独で使うことができるため、今後も広く普及活動を行っていく。また、対象者の要望を反映させて、教材の情報提供内容のシリーズ化を図ることも必要である。

本研究は研究開始年の2014(平成24)年7月以降に過激化した尖閣諸島問題によって日中間の情勢が悪化したため、研究の第一段階の在日中国人女性留学生の性の健康についての知識・意識・価値観・保健行動・要望の実態把握調査が研究計画より1年遅れた。その影響によって1年間の研究期間延長を申請し、承認を得て研究を終えることができた。その一方で、2015年以降、中国人旅行者が急増し、交通や観光案内の中国語表記は進んでいるが、旅行者への健康対応は十分とは言えず、本研究成果を活用することも今後の課題と考える。

<引用文献>

馬斌(2007):在日中国人大学院生における精神的健康度とその心理・社会的要因,順天堂医学,53(2),200-210.

GuYan-Hong, LeeSetsuko, Ushijima Hiroshi(2004):東京大学在学中の中国人女性留学生に対する医療および母子健康管理の必要性, The Tohoku Journal of Experimental Medicine, 204(1), 71-78.

井上孝代(2001):留学生の異文化間心理学:文化の受容と援助の視点から,玉川大学出版部,7-12.

伊藤武彦, 井上孝代(1998):全国高等教育機関留学生相談の実態調査第1報,平成8・9年度科学研究費補助金成果報告書,16-38

久米絢弓,西川まり子,大久保一郎(2010):在日

中国人留学生の保健行動に関する実態調査,国際保健医療 25(3),171-179.

黒田千晴(2011):中国の留学生政策—人材資源強国を目指して—,ウェブマガジン『留学交流』vol.1,1-6.

森真喜子,青柳美樹(2007):日本における中国人留学生の保健行動とサポート・システムの現状,日本赤十字看護大学紀要,21,33-41.

日本学生支援機構(2006):留学生受入れの概況(平成18年版)

寺倉憲一(2009):我が国における留学生受入れ政策—これまでの経緯と「留学生30万人計画」の策定—,国立国会図書館調査及び立法考査局レファレンス,2月号,27-47.

陳金てい,高田谷久美子(2008):在日中国人留学生の勉学・生活におけるソーシャルサポートの特徴とその効果,山梨大学看護学会誌,6(2),17-24.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

齋藤早苗、辻本裕子、利木佐起子:米国東海岸大都市における外国人留学生や在留外国人に対するWomen's Health Careの現状からみたわが国の課題、ヒューマンケア研究学会誌、査読有、6(1)、77-80、2014

齋藤早苗、辻本裕子、カルデナス暁東、田中克子、吉田和枝、兼子加寿子、末原紀美代、中国山西省における母子保健学術交流および医療施設の視察からリプロダクティブヘルス推進への一考察、梅花女子大学看護学部紀要、査読有、3、13-18、2013

[学会発表](計6件)

カルデナス暁東、齋藤早苗、辻本裕子、黒田裕子、町浦美智子:在留中国人女子学生のための婦人科受診行動支援プログラムの評価、第36回日本看護科学学会学術集会、2016、東京

Saitoh Sanae, Cardenas Xiaodong, Tsujimoto Hiroko, Kuroda Yuko, Machiura Michiko, Suehara Kimiyo: Health and QOL of Chinese female students in Japan, 18th East Asia Forum of Nursing Scholars, 2015, Taipei TAIWAN

辻本裕子、齋藤早苗、カルデナス暁東、黒田裕子、町浦美智子、末原紀美代:女子学生の月経に関連する知識と行動-日本人学生と中国人留学生の比較から-、第55回日本母性衛生学会学術集会、2014、千葉市

齋藤早苗、カルデナス暁東、辻本裕子、黒田裕子、町浦美智子、末原紀美代:在日中国人女性留学生の生活の質の実感とリプロダクティブヘルス、第34回日本看護科学学会学術集会、2014、名古屋市

齋藤早苗、カルデナス暁東、辻本裕子、黒田裕子、町浦美智子、末原紀美代:中国人女性留学生のリプロダクティブヘルスに関連

する知識の実態調査、第 54 回日本母性衛生学会学術集会、2013、さいたま市

齊藤早苗、カルデナス暁東、辻本裕子、黒田裕子、町浦美智子、末原紀美代：中国人女性留学生の女性の健康に関連する知識と行動、第 33 回日本看護科学学会学術集会、2013、大阪市

〔その他〕

DVD 教材：中国語版「 - 留学生の皆様へ - 婦人科へ行こう！貴女のヘルスチェックのために」(カラ - 11 分) 2014、制作・著作 齊藤早苗

リーフレット教材：中国語版「 - 留学生の皆様へ - 婦人科へ行こう！貴女のヘルスチェックのために」

編集／発行 齊藤早苗、カルデナス暁東

リーフレット教材：日本語版「 - 留学生の皆様へ - 婦人科へ行こう！貴女のヘルスチェックのために」

編集／発行 齊藤早苗、カルデナス暁東

6. 研究組織

(1)研究代表者

齊藤 早苗(SAITOH SANAE)

梅花女子大学・看護保健学部・教授

研究者番号：4 0 2 6 9 8 5 8

(2)研究分担者

カルデナス 暁東

(CARDENAS XIAODONG)

大阪医科大学・看護学部・准教授

研究者番号：8 0 4 3 4 9 2 6

(3)連携研究者

末原 紀美代(SUEHARA KIMIYO)

徳島文理大学・看護学部・教授

研究者番号：9 0 1 1 2 0 4 4

町浦 美智子(MACHIURA MICHIKO)

武庫川女子大学・看護学部・教授

研究者番号：7 0 1 3 5 7 3 9

(4)研究協力者

辻本 裕子(TSUJIMOTO HIROKO)

梅花女子大学・看護保健学部・講師

研究者番号：2 0 5 8 3 3 1 3

黒田 裕子(KURODA YUKO)

姫路大学・看護学部・教授

研究者番号：0 0 4 0 5 1 1 9